

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
元気にがんばる塩田っ子の育成	①思考力・表現力の向上(校内研究の推進) ③体験活動の推進(地域との連携) ⑤自主的活動の推進(やる気の育成) ⑦体力の向上(運動機会の確保と運動習慣の形成) ⑨勤務時間を意識し、ワークライフバランスを意識した効果的な働き方の推進
	②学力の向上(学習習慣の確立) ④心の教育の推進(あいさつ、言葉遣いの指導) ⑥特別支援教育の推進(理解の推進、支援体制の充実) ⑧保護者や地域との協働(コミュニティスクールの活性化)

達成度 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

①思考力・表現力の向上と主体的学習習慣の育成を図り、学力の向上を目指す。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	思考力・表現力の向上	・アンケートで、「自分の思いや考えを表現することができた」と答える児童・職員が共に80%以上をめざす。 ・校内研究の学習アンケートで、「意欲的に対話活動に取り組んだ」と答える児童が80%をめざす。	・授業の中に、短時間の対話活動を取り入れることで、自分の思いや考えを持たせ、それを発表できたという満足感を味わわせる。 ・学校行事等で、児童の表現の場を多く設定する。 ・国語タイム・算数タイムにおいて、月1回以上、活用カプリントを実施する。	B	・「思いや考えを発表することができた」とアンケートに答えた児童が78.4%、「子供の思考力や表現力するように工夫している」とアンケートに答えた職員が100%で、児童の評価が目標を下回っている。児童は80%に達成しなかったが、中間評価の結果、75.5%より高くなっている。思考力向上について、継続した取り組みの成果が見られたが、学年が上がるにつれて、説明内容に自信をもてない児童がいる。 ・「自分の考えを相手に伝えることができたか」とアンケートに答えた児童が80.3%で、目標値を上回った。授業中や集会等では、どの児童も対話活動に取り組んでいるので、身近な友だちの前では伝えあうことができている。	・クラスの支持的風土づくりを常に心がけ、発表の機会や児童に対しての賞賛を増やして、自信を持たせるようにする。 ・対話の必然性を持たせるために対話の目的や内容を明確にして授業を行い、「わかりやすい授業」づくりをする。
		主体的学習習慣の育成	・学年ごとの家庭学習時間(学年×10分+10分)を達成できる児童が80%以上をめざす。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーに取り組む家庭が75%以上をめざす。	・主体的学習習慣づくりのため、「家庭学習の手引き」の活用を進める。 ・児童が自ら家庭学習に取り組む意欲を高めるため、自学ノートコンクールを年2回以上開催する。 ・自学ノートコンテストの入賞者枠を広げていろいろな児童に入賞のチャンスを与える。 ・毎月1日前に、ノーテレビ・ノーゲームデーをお便りやマチコミメールで呼びかける。お便りには、達成率や家庭の取り組み状況を掲載し推進を図る。担任も呼びかける。	B	・アンケートの項目で「家庭学習に取り組むことができている」と答えている児童が87.5%、保護者が81.2%で、双方とも目標を達成できたといえる。 ・アンケートで、「ノーテレビ・ノーゲームに取り組めた」と答えた児童が78.5%で、目標を達成できた。しかし、保護者は同様の質問に対して63.1%しか取り組めたと答えていないため、意識に差があると考えられる。よって目標をまだ十分に達成したとは言えない。	・年度当初に、PTA総会で、ノーテレビ・ノーゲームについての取り組みを呼びかけるとともに、毎月、実施数日前にお便りや学校便り、マチコミメールや学級通信で呼びかける。また、児童に対しては校内放送で呼びかける。
学校運営	○教職員の資質向上	授業力の向上	・アンケートで、授業について「わかりやすい」と答える児童・保護者が共に80%以上をめざす。 ・アンケートで、「指導力が向上した」と答える教職員が90%以上をめざす。	・西部型授業の流れを常に意識して実践し研究授業も西部型スタイルで行う。 ・わかりやすい授業(教材、教具、導入の工夫など)についての情報交換を頻繁に行い、授業研究会等で共有する。 ・「かけ算道場」や「さよなら算数」などを今後も継続する。 ・「学期末のまとめテスト」を合格(100点)するまでチャレンジさせる。合格児童には、合格証を授与する。	A	アンケートで授業についてわかりやすいと答えた児童95.6%、保護者87.2%であった。また、算数TTIについては児童94.9%、保護者93.2%が効果が上がっていると回答している。いずれの項目も児童、保護者の意識の差が少なくなった。そして、職員全員も指導力向上に努めていると回答している。 しかし、学習が定着していないと感じている保護者もいることから今後も取り組みを継続していきたい。	児童の学習状況を見ながら、個に応じた支援を家庭と連携しながら継続していきたい。

②挨拶・いじめの未然防止等の取り組みと特別支援教育の推進を通して、心の教育の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価)	具体的目標	具体的方策	達成度	評価及びその理由	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	・アンケートで「学校は心の教育を積極的にしている」と答える保護者が85%以上をめざす。	・年1回以上、道徳の授業を公開する(9月の授業参観で、全学級「ふれあい道徳を実施する。) ・各学級でなかまづくりの授業を実践する。 ・「特別の教科 道徳」の研修会を夏季休業中に実施し、理論研修(評価も含む)を行う。	A	・アンケートで「学校は心の教育を積極的にしている」と答えた保護者が94.7%で目標を上回った。 ・9月のふれあい道徳の前後に、各クラスの授業の内容や保護者の感想を知らせることで、道徳の授業について保護者に理解してもらっていると考える。	・道徳の授業だけでなく、学活や人権教育とも関連し、なかまづくりの活動や話をして、心を耕すようにしている。
		望ましい生活習慣の確立	・アンケートで「あいさつができて」と答える児童・保護者が共に85%以上をめざす。	・「あいさつ」を年間を通した生活目標とする。 ・あいさつの仕方(声の大きさや態度など)について具体的に指導するとともに、日頃から地域の人への積極的なあいさつを呼びかける。	B	アンケートで、「あいさつができて」と答えた児童が95.6%、保護者が91.7%で目標を達成している。ただ、学校の中での児童の挨拶や地域での挨拶が十分とは言えない。	・登校班長を中心に、挨拶の意識を高めるように超え賭け指導を行う。 ・学校や地域で気持ちのよい挨拶ができるように、継続して声をかけていく。
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止・早期発見	・アンケートで「学校が楽しい」と答える児童・保護者が共に100%以上をめざす。	・「先生あのお・心のアンケート」を毎月1回実施し、いじめの早期発見に努める。 ・週1回の職員連絡会で児童理解のための情報交換会を行う。 ・教育相談週間(11月:45分×4日間)を実施し、児童の実態把握に努める。	B	・アンケートで「学校が楽しい」と答える児童が91.3%、保護者が96.2%で高い達成率であるが、学校としては100%を目指したい。 ・毎月「先生あのお・心のアンケート」を実施し、児童の相談があれば、担任や他の職員が話を聞いて実態把握や児童理解に努めている。 ・月1回、児童理解のための情報交換会を行うことで、いじめの早期発見につなげている。	・「学校が楽しい」と答える児童が100%を目指し、日々の観察・声かけをより充実する。 ・教育相談週間(45分×4日間)を設けることができたので、次年度にも続けたい。
		○特別支援教育の推進	特別支援教育の支援体制の構築	・アンケートで「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができて」と答える職員が85%以上をめざす。	・特別支援学級や通常学級に在籍する児童の情報交換を、年5回(4月、5月、学期末、11月、学年末)に行う。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く。 ・児童の実態を把握し、保護者、SC、教育相談員、関係機関との連携を図る。	A	・アンケートで「困り感を持つ児童に対してきめ細やかな指導支援を行うことができた」と答えた職員が93.8%で、目標を達成した。 ・特別な支援を要する児童の担任が校内の職員と協力し、保護者との連携もとれるようになり、SC、教育相談員や医療機関との連携が図られた結果であると考えられる。 ・通常学級で困り感を持つ児童の指導支援のあり方をさらに研修し、よりよい指導支援ができるようにしたい。
学校運営	○教職員の資質向上	教職員としての責務に合った児童理解と生徒指導力の向上	・アンケートで「児童理解と生徒指導力の向上に努めることができた」と答える職員が90%以上をめざす。	・毎月第3火曜日の連絡会を児童理解のための情報交換会を行う。必要に応じて、随時職員連絡会で情報交換を実施する。 ・年1回の研修会を行う。 ・教職員として児童理解に立った言動に努める。	A	・アンケートで「児童理解と生徒指導力の向上に努めることができた」と答える職員が100%で達成できている。 ・夏休みに講師を招き、研修会を実施した。	・今後も毎月、第3火曜日の連絡会を児童理解・支援のための「情報交換会」として続けていく。

③運動機会の確保・奨励と体験活動の充実を通して、体力の向上と自主性の伸長を目指す。							
領域	評価項目	評価の観点 (主体的評価)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	具体的な改善策・向上策	
教育活動	●健康・体づくり	運動機会の確保と運動の奨励	・アンケートで「体育や運動が楽しい」と答える児童・保護者が共に90%以上をめざす。	・佐賀県版の「体育の学習」を活用し、指導方法を工夫して授業を行う。 ・スポーツチャレンジに積極的に取り組む。 ・水泳大会、マラソン大会、なわとび大会を計画的に実施し、記録に挑戦するよう働きかける。	A	・アンケートの結果では、運動が楽しいと答えた児童が92.6%、子どもは運動を楽しんでいると答えた保護者が92.5%で、目標を達成できていた。外遊びの奨励や、マラソン大会やなわとび大会等の体育的行事で1人1人に目標を持たせて達成感を味わせたこと、県が主催しているスポーツチャレンジに学級単位で積極的に取り組んだことなどが効果的であったと考える。	・学年によって、スポーツチャレンジへの参加率に差があった。他学年の取組を紹介したり、「縦割り8の字」の種目にも取り組むなど、参加率を上げるための手立てをとっていきたい。
		望ましい生活習慣の形成	・アンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると答える児童・保護者が共に80%以上をめざす。 ・アンケートで「手洗い・うがい・歯磨き」が出来ていると答える児童・保護者が共に90%以上をめざす。	・生活・学習ががんばりカードで、8月と1月の年2回、「早寝・早起き・朝ごはん」をチェックする。 ・ほげんだよりで「早寝・早起き・朝ごはん」を呼び掛ける。 ・養護教諭と担任が連携し、手洗い・うがい・歯磨き等の生活習慣に関する保健指導を各学級で行う。	B	・アンケートの結果、早寝・早起き、朝ごはんについてはできたと答えた児童が91.2%、保護者が88.7%で、目標を達成できていた。 ・手洗い・うがい、歯磨きについては、できていると答えた児童96.3%であったが、保護者は87.2%で、わずかに目標を達成できなかった。 ・養護教諭と担任が連携して早寝・早起き、朝ごはんを呼びかけたことや、「生活・学習がんばりカード」を年に2回実施したことは、児童や保護者の意識を高めることに効果的であったと考える。 ・手洗い・うがい、歯磨きについての保護者アンケートの結果は、目標には届かなかったものの、1回目の結果78.8%と比較すると5ポイント以上上昇している。毎週月曜日に各学級で実施している衛生検査の項目に手洗い・うがい、歯磨きの項目を加え、児童の意識を高めたことが、家庭での行動に反映されていることと表れたと考える。	・早寝・早起きの目安の時間を提示する。 (例) 低学年・・・9時までに寝る 中学年・・・9時半までに寝る 高学年・・・10時までに寝る 全学年・・・遅くとも朝6時半までには起きる ・養護教諭を中心とした健康に関する事項の呼びかけや、衛生検査等の活動は、今後も継続していく。
	○自主的活動の推進	自己有用感を育む体験活動の充実	・アンケートで、生活科・総合的な学習の時間や学校行事が「楽しい」と答える児童が80%以上をめざす。	・生活科や総合的な学習の時間において児童の興味・関心を生かした体験活動や表現活動を多く取り入れる。 ・各学年で、外部や地域ボランティアと連携した学習活動を年間2回以上行う。	A	・アンケートの結果、生活科・総合的な学習の時間や学校行事が楽しいと答えた児童が96.4%、学校は体験活動の充実にも努めていると答えた保護者は96.2%で、目標を達成し、多くの児童・保護者が肯定的であることがうかがえる。 ・体験活動で学んだことをよかとこ祭りで発信したこと、年間を通じて地域コミュニティを中心とした外部講師と連携した活動に計画的に取り組んだこと等は大変効果的であった。	・今後も引き続き地域コミュニティとの連携を密にし、児童の自己有用感を育めるような体験活動を計画的に実施し、内容も充実させていきたい。

④保護者や地域への学校教育活動の公開に努め、理解や協力を得る。

領域	評価項目	評価の観点 (主体的評価)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	具体的な改善策・向上策	
学校運営	○開かれた学校づくり	授業・行事等の公開し、保護者や地域と連携した学校運営	・学校・学級だよりなどで学校の様子をよく知らせ、授業参観や行事の参加率が85%以上をめざす。 ・地域と連携した取り組みについて、「協力した取り組みができて」と答える職員・保護者・学校運営協議会委員が共に85%以上をめざす。	・学校だよりやホームページを活用し、コミュニティ・スクールの取組(各学年が取り組んだ地域との連携活動等)について積極的に情報を発信する。 ・年間行事計画に加えて、授業参観や行事等について早め(1か月以上前)にメールや案内をすることで、保護者が参加しやすいようにする。また、委員を招待し、参加してもらう。 ・本校の取組の成果と課題について、第3回の協議会において学校運営協議員と職員(P会代表)が協議する機会を設定し、共通理解と問題解決を図る。	A	・保護者アンケートで「学校・学級だよりなどで学校の様子をよく知らせている」が97.7%、「積極的に学校行事に参加している」が94.8%であった。実際に授業参観や学校行事の参加率も91%で目標を十分達成している。地域と連携した取り組みができていたと答えた保護者96.3%、職員100%で目標を上回っている。これは、地域コミュニティとの連携活動が充実し、地域の方々からの積極的に協力をいただいていることもあり、大きな成果である。	・今後も地域連携活動と、教科等との横断的なカリキュラムを見直しながら、体験活動の充実を図っていく。
学校運営	●業務改善・教職員の方改革の推進	教職員の働き方に関する意識改革を行い、児童とむきあう時間を確保する。	・「子どもとの向き合う時間が増えた」と答える職員が70%以上にする。 ・役割分担やプロジェクトの役割を効果的に活用し協働意識を高め、職務の効率化と指導の充実を図る。	・OJTや会議で情報交換や協議を行い、共通理解に基づいた協働を推進する。 ・前年踏襲だけではなく、現在の学校の現状にマッチした取り組みを考えながら、校務全体を見直す。 ・市内一斉定時退勤日(第3水曜日)は、17時30分全員退勤完了を目指す。また、第3を除き、毎週金曜日を校内定時退勤日として、ワークライフバランスの意識を高める。	B	・情報交換や協議を行い、グループ学年やプロジェクトで協力し助け合って仕事をしていると考える職員は100%であった。提案事項は、担当の原案をプロジェクトで話し合い会議に出し、会議の時間は短縮されている。 ・職員の時間外勤務時間は、月平均38時間であった。また、定時退勤日を意識して守ろうとする職員は56.3%と少ない。しかし、「働き方改革」で子どもと向き合う時間が増えたと感じる職員は81.3%であり、成果は上がっている。	・プロジェクトをさらに機能させ、目標の達成・効率化を進める。 ・タイムレコーダーに時間外時間累計を提示し、時間を意識するように進める。定時退勤日は全職員で実施できるよう方策を考える。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○3つのプロジェクト構成で学校経営方針に基づいた評価項目、目標、方策等はもちろん、評価についても中間、最終評価を各部会・全職員で行った上で、部会長が学校運営協議会で結果報告をするなど、全職員の学校運営への参画意識は高まっている。また、学期の初めと中間に、各プロジェクトから児童へ目標や方法を具体的に説明する等、学校全体で取り組む体制もできてきた。

○アンケートの結果には表れているとは言えないが、全国・佐賀県の学習状況調査では一定の成果が伺えた。表現力並びに思考力を高めるための授業改善はもとより、基礎・基本の定着を目指した算数・国語タイムや家庭学習等、「継続」と「徹底」を合言葉に取り組んだ様々な手立てに加え、家庭、地域との連携による子どもを見守る環境が学力の基盤を支えていることが見て取れる。

○特別支援教育の体制づくりが整い、外部専門機関との接続や定期的な校内研修により、全職員が共通して児童の教育的ニーズに対応した支援ができています。

○運動や食育の大切さを指導しながら、水泳大会、マラソン大会、なわとび大会、スポーツチャレンジ、縦割共遊等の活動を計画的に実践していることで、児童の体づくりや仲間意識の醸成につながっている。

○5年目を迎えたコミュニティ・スクールは、地域コミュニティとの連携を密にし、事前の打合せでねらいや内容を共有したことで、児童の豊かな学びがさらに深まり、地域連携教育に関する職員の意識も高まっている。

▼道徳の教科化をはじめ、新学習指導要領の完全実施に向けたカリキュラム・マネジメントなど、これまで以上にPDCAサイクルを意識した教育課程の編成が喫緊の課題と考える。特色ある学校づくりを進めていくためにも、学校目標に準じた学校評価項目の見直しや目標設定を全職員で引き続き行っていきたい。

▼地域連携による教育活動は充実しているが、「継続」することが大切だと考える。無理のない運用に加え、家庭、保護者を巻き込んだ体験や教育活動を展開し、児童の豊かな学び、安心できる教育環境づくりを進めていきたい。さらに、児童の学びを家庭や地域で生かす教育活動を模索し、学校が拠点となって家庭や地域で育てる環境づくりを進めていきたい。

▼ふれあい道徳、人権教室、縦割り活動等、様々な児童の心耕しを行っている。昨年度から、認知事案は減少したが1件発生した。ただ、早期に発見し、早期に対応できたことは、いじめ防止に対する高い意識を持って全職員で対応している成果と見ることもできる。このことを真摯に受け止め、「魅力ある授業づくり、児童との絆づくり、保護者との信頼づくり」を柱に、これまでの取組の見直し・早期発見、早期対応に向けた体制作りを強化して行く必要がある。

▼業務改善・教員の働き方改革では、教員の協働意識が高まり効率化を意識するようになった。しかし、時間外勤務は、改善の余地がある。定時退勤推進日には、全員が早めに帰宅するよう努力したい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目